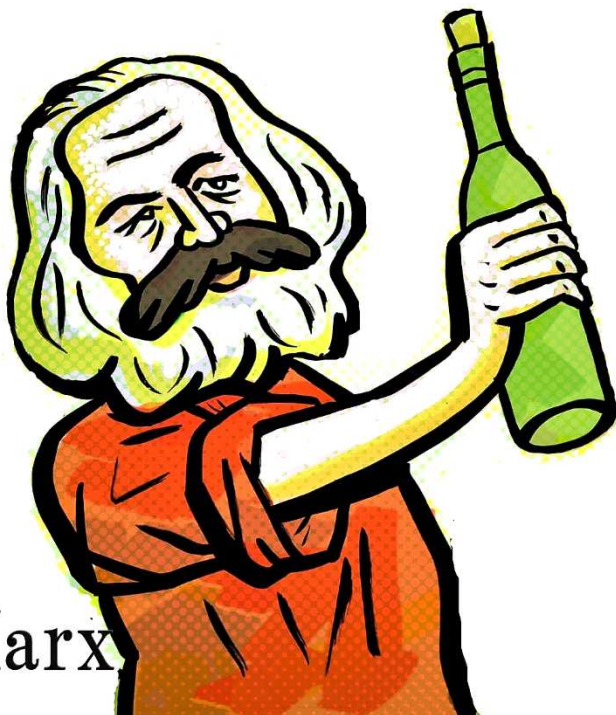


# DAS KAPITAL

## 9月学習会の案内 第43回「資本論を読む会」



四周年か！  
おめでとう！！

日時：  
9月29日（木）  
午後6時30分  
Zoomで開催

「第8節 大工業における工場手工業、手工業、家内労働の革命」(P465～)

8月31日に開かれた「資本論を読む会」には、いつもの10人が参加しました。第7節は機械装置の採用が労働者の奴隷状態を深刻なものとする事、「従業労働

者を減少させるが、(資本の規模が大きくなると)増加させる」という、またいつものマルクス流の面倒くさい矛盾的表現が出てくる。そして「ここではこれ以上は詳しく論ずべきではない」などと、勿体つける言い方を。「オレはこんな言い方嫌いだな!」と内容に関係ない脱線的意見も…?(注)論理的展開は「第7篇 資本の蓄積過程」(資本論・岩波文庫第3分冊)でされるのだが、相対的過剰人口論や、産業循環の定式化された表現などが紹介された。

勉強後の懇親会では、協会運動のあり方に問題提起を続けてきた香川の加藤さんが亡くなったこと(75歳)、ソ連のゴルバチョフの死、そして座長Tabeさんが腰の手術を受けることなどについての話題やその他で、結構遅くまで飲み、議論して閉会。

今回は標題の「第8節 大工業における…」をやります。レポーターはKaiさん。9月は「資本論を読む会」をはじめて4年目です(9.11)が、宴会など祝賀会的なものは考えていません。やっと第2分冊にメドがついた段階ですから、第1巻(第3分冊)を終わらせるには、あと1年以上はかかりそう。今からでも参加する方は歓迎します。「みんなと一緒にやれば何とかなる」精神で…。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coccan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから --anak

### 第7節 機械経営の発達にともなう労働者の反発と牽引。綿業恐慌

☆p448-①工場諸部門の拡張が、労働者数の相対的減少とのみではなく、絶対的減少とも結合されることがありうる。

☆p450-②(しかし)機械経営自体の成長とともに、結局工場労働者も、彼らによって駆逐された工場手工業労働者、または手工業者よりも多数になり得る。「従業労働者数の相対的減少は、その絶対的増加と矛盾しない。」

(例示)500ポンド(a不変資本・生産手段200po+b可変資本・労働力300po・人)

→機械経営ではa400+b100に。bの2/3は解雇される。→1500ポンド(bは300人に)

◎p452-(以上の記述は)純事実的関係にある程度まで触れておくことにする。理論的説明自体は、まだ及んでいない(→詳細は「第7篇 資本の蓄積過程」第23章 資本主義的蓄積の一般的法則で

p453-10L外国市場征服と原料生産へ(東インド)→国際的分業の創出へ

p454※この変革についてはまだこれ以上詳しく論ずべき場合ではない。(これも第7篇へ)

☆p460-綿花飢饉の歴史

☆p464- イギリス綿業の最初の45年間